

第 37 回 日本受精着床学会総会・学術集会

0-95

東京、2019.08.01-02

GM-CSF 含有胚培養液を移植用に用いた 3 日目胚移植成績の検討

佐藤学<sup>1</sup>、中岡義晴<sup>1</sup>、森本義晴<sup>2</sup>

<sup>1</sup>IVF なんばクリニック、<sup>2</sup>HORAC グランフロント大阪クリニック

目的

GM-CSF は着床時期に重要なサイトカインの一つで、発現量が少ない場合、着床不全や流産の一因となる。GM-CSF 含有胚培養液が市販され、移植用として使用した場合に流産を改善するか検討を行った。

方法

2018.9~2018.12 までに Day3 胚移植を行った 324 周期（平均年齢 39.6 歳）を対象とした。Sage 1-Step™ GM-CSF (Cooper Surgical) で移植を行った (GM)。対照区は 2018.6-2018.9 に Day3 移植を行った 323 周期（平均年齢 39.5 歳）とし、移植用培養液は UTM (Cooper Surgical) で移植を行った (UTM)。臨床的妊娠率、流産率を比較した。またタイムラプス観察で第一、第二卵割正常胚に限定した場合の比較、さらに卵割正常胚移植で反復移植症例に限定した場合でも同様の比較を行った。

結果

GM と UTM の妊娠率 (26.2 vs. 25.7)、流産率 (30.6 vs. 25.3) に差はなかった。39 歳以下の場合、GM と UTM の妊娠率 (32.4 vs. 36.9)、流産率 (28.9 vs. 13.5) に差はなかった。40 歳以上の場合、妊娠率 (21.6 vs. 17.0)、流産率 (32.5 vs. 48.4) に差はなかった。第一、第二卵割正常胚を移植に限定した場合の GM と UTM の妊娠率、流産率に差はなかった。反復移植症例に限定した場合の GM と UTM の妊娠率、流産率に差はなかった。

考察

妊娠率、流産率に違いはなく、GM を移植に用いた影響は見られなかった。反復不成功例など症例をより限定し、症例数を増やして継続的に検討する必要がある。